

13. 小さい犬を抱っこ紐で、大きい犬を抱えてじっと……

吉田和子 62歳 主婦 北区在住

- どこに誰といましたか。

7階建マンション6階の自宅に、1人でいました。いつも、入院中の父の所に行きませんが、ちょうど飼犬の食事の支度をするために、一時、帰宅していたのです。父の病室に戻ろうと、玄関にいました。地震に気づいて、靴を履いたまま居間に戻りました。小さい方の犬を抱っこ用の袋に入れて肩から提げ、大きい方の犬を抱えて玄関に戻り、ドアを開けてその場にしゃがんでいました。

居間の方から何かが落ちて割れる、ガシャンという音が聞こえていました。お隣の中学生の坊やが、家から携帯電話を手には飛び出してきて、2人で顔を見合わせて、無言でじっと揺れがおさまるのを待ちました。完全に揺れがおさまったと感じてから、「怖かったねえ」と言葉を交わして居間に戻りました。

- 何か被害がありましたか。

居間では、飾り棚の上に立てかけていた絵が、床に落ちて、その額が割れていました。床に落ちた物はいろいろありましたが、割れたのはその額と、その近くに飾ってあったガラスの花瓶、そして台所のカップボードの中の小皿が1枚、それだけでした。

- 犬はどうなりましたか。

犬をケージに入れて、靴を履いたまま、散乱したものを片付けました。度々揺れが来るので、上にある物はとりあえず、すべて床に並べて落ちることを防ごうとしました。ようやく部屋が片付いてからテレビをつけ、靴は履いたまま、居間のソファに震える2匹の犬を抱えて座っていました。

- 最後にひとこと。

今回の地震では、自分自身でも驚いたのですが、現金や通帳や印鑑や宝石など、普段大切と思っているはずの物のことは全く考えなかったことです。「命」が助かることだけを考えていました。今回はたまたまバッグを肩からかけていましたが、持てる物の準備と、日ごろの心構えが必要と実感いたしました。

2011年6月26日